

第3回

キーワード

・現代人の解釈 () ・古代人の解釈 () ・言葉と神名

○神名自体の意味 (3つの分類は「 」が提唱)

・アメノミナカヌシ系 : 神名が () 的

・ウマシアシカビヒコジ : 神名が () 的

→ ウマシ アシカビ ヒコジ

() () ()

×現代人の解釈

(「抽象・原因」) → 葦芽 (「具体・結果」)

↑

○古代人の解釈

葦の芽 → ()

・オモダル系 : 神名が () 的・言葉が神の名の由来となっている

例:

オモダル → ()

アヤカシコネ → ()

イザナギ → ()

イザナミ → ()

※すべての言葉が神名になっている

○言霊 (言葉の持つ具体的な力)

古代日本人がいか「 」と信じていたかを示している。

() の造語

第4回

キーワード

・言霊 ・詩的言語

○言霊

イザナギ・イザナミのように具体的なネーミング

※ () : どんなもとにも霊魂 (アニマ) があり、それは言葉を理解できる。

例1 : イザナギ・イザナミ神話 (大地・島を生命として扱う)

例2 : 大国主神話 (国づくりを神の働きとして扱う)

例3 : 海幸彦・山幸彦物語 (自然環境や生活の力関係を人のドラマとして扱う)

このような言霊の思想は、細々とではあるが現代まで残っている。

例1 : 竣工式・地鎮祭 → 神主の () が必須

例2 : 婚礼 → 禁句のオンパレード (切る=入刀、終わる=お開きにする)

○詩的言語 ※日本文学の言霊の影響

・和歌の季節感 (=) ←これが万葉集には多い

石走る 垂水の上の さわらびの 萌え出ずる春に なりにけるかも

現代人的解釈 : 春の到来 → わらびの芽吹き

(抽象・原因) (具体・結果)

古代人的解釈 : 春の到来 = わらびの芽吹き (わらびが芽吹いていることが春そのもの)

詩的言語で表すと、「 」

第5回

キーワード

・ 導詞 ・ 二種の一元論

○日本における言霊思想の影響

①導詞：ある言葉を導くための前置きとなる言葉

例：()・()・()

②文学ジャンルの短章化

長歌 → () → ()

○中世人の思想（二種の一元論）

・()一元論：現実を無批判に受け入れるだけ

→現実の()化

・()一元論：現実には批判を加えたうえで受け入れる

→現実が()として立ち現れる

第7回

キーワード

- ・三段階の発展
- ・平常心

○禅の理論

- ・三段階による発展



日常生活の中で…

	第一段階	第二段階	第三段階
言葉	本質にとられる分節	無分節	本質にとられない分節
	限定・固定・凝固性		

	①	②	③
勝負	勝ちを意識する →	勝ちを意識しない →	勝ちを意識しない事を意識する(=) →
禅	色(しき)	空(くう)	色(しき)

- ・① → ②の矢印：() 意味：この世のあらゆるモノや現象は、実体がない
- ・② → ③の矢印：() 意味：実体がないから、モノや現象が存在する

⇒禅は()を嫌う

例：百尺の筆頭にさらに一步を進める

○道元について



・古代人の感性を引き継いだ中世人

「文筆詩歌等、詮なきものなれば、」

14才 出家

24才 ()に留学

28才 帰国(本来留学は 年)

道元(1200~1253)

第8回

キーワード

- ・ 言語の独創的使用
- ・ 世界5分前創造仮説
- ・ 親鸞の語

○言語の独創的使用（道元）

『
』：道元の代表的な著作

古仏曰く 「**有時**高々峯頂立、**有時**深々海底行…」

古仏：() 禅師→道元の師

ポイント

【有時の解釈】

×ある時は

○実在する時間（ のある時間）…過去、未来、すべてを含んだ上で成り立つ

例：松も時なり、竹も時なり→松と竹がそれぞれの時間を生き、時間は経過ではなく、存在の表れ

これらの用法を

「
」としている。

○言語の独創的使用（親鸞）

「善人なおもて往生す（を遂ぐ）、いわんや悪人をや」

独創的使用理由：()

※実在する時間について

.....→ 時間（時間幅あり）

・道元 : 有時（見解： 過去 現在 未来）

・大森荘蔵：過去は（ ）に依存する。

・ラッセル：「
」

→この世界は、五分前にすべてが今の状態で作られたのかもしれない

・マルクスアウレリウス：一瞬にすぎない現在のみを生きる

哲学 学年末範囲

○道元の修行

只管打座：()

↓

三昧：() 状態

↓

身心脱落：() が消失して、(=世界) にとけこんでいく境地

例「冬草も 見えぬ雪野の 白さぎは 己のすがたに 身を隠しけり

大我：()

小我：()

※デカルト：() によっても、我は存在する

例：我思う、故に我あり

道元：小我は消失する

第9回

キーワード

・不染汚（ふぜんな） ・梅花 ・実存

○道元の「現実をよく見る」

身心脱落→不染汚（ふぜんな）：（ ）や（ ）に染まらない見方

『正法眼蔵』より

例1：雪裏、梅花は一現の量花なり

例2：先師古仏曰く「……、梅開早春」

×梅は早春に開く

○梅は早春を開く

例3：先師古仏曰く「春は梅花に在って画図（がと）に入る」

春をかこうと花を描く

花をかこうと春の花を描く

※松尾芭蕉「静けさや 岩にしみいる 蟬の声」

静かな場면을蟬の声しか聞こえないような書き方をすることで表現

○実存とは？

実存（現実存在）existence

「（ ）として特定の状況の中に存在している自分」

第10回

キーワード

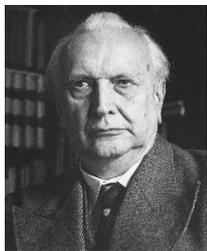
・ヤスパーズ ・自由という刑



(1844~1900)

○ニーチェ

- ・() : 人生で起こるすべての出来事を「これこそがわが人生に必要なだ」と捉え、積極的に肯定し、愛する思想
- ・永劫回帰 : 人生が細部に至るまで全く同じように無限に繰り返すという考え方であり、今この瞬間を肯定的に生きるための思想



(1883~1969)

○ヤスパーズ

- 「実存は()の中ではじめて自覚させる」
 - 死、苦悩、争い
 - 一寸先は闇



(1889-1976)

○ハイデガー

- () …世間の「ひと」に紛れて自分らしさを失って生きる
- ↓
- () …自分らしく生きる



(1905~1980)

○サルトル

- 「実存は()に先立つ？」
- 「人間は()に処されている」
- () = 社会参加) が必要

○実存主義の課題

生が不条理な現実であるにもかかわらず、生を充実させるために積極的に生きること。

